

草加っ子

にこにこ わくわくプラン

～草加市 乳幼児期 保育・教育課程～



令和2年3月

草加市教育委員会

はじめに

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、急速な高齢化、人工知能の進化と飛躍的な技術革新など、子どもたちを取り巻く社会環境は大きく変化しており、同時に多くの課題が生じています。とりわけ、人格形成の基礎が培われる乳幼児期は、子どもの成長の過程において極めて重要な時期ですが、社会環境の変化により、人間関係は希薄化し、豊かな自然体験の機会も失われつつある状況です。

こうした中、平成29年には幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下「幼児教育3法令」といいます。）が改訂・改定され、平成30年度から実施されています。この改訂・改定により、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における幼児教育に関する内容の一層の整合性が図られ、幼児教育を通して資質・能力が育まれている子どもの姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。そして小学校教育においては、この姿を踏まえて、指導を工夫することが明示されました。

草加市においては、こうした幼児期の教育の成果をいかして小学校教育を、さらにその成果をいかして中学校教育を充実させることで、学校段階を超えて資質・能力を育むことを目指し、平成30年度から「幼保小中を一貫した教育」を実施しています。幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、中学校、家庭、地域が連携し、子どもたちの育ちを一貫して支えるとともに、各発達段階に応じて、遊びを中心とした学びと生活・学習指導を充実させることで、保育・教育の改善に取り組んでいます。

こうした経緯を踏まえ、平成28年度に作成した「草加っ子 にこにこ わくわくプラン」を改定したものが本プランとなります。これは、乳幼児期において子どもたちに経験させたい内容を、発達段階や乳幼児期の保育・教育の実施時期ごとに示した資料であり、各園で保育計画・指導計画を立案する際の参考資料となります。今回の改定では、幼児教育3法令の改訂・改定に沿って、内容を見直すとともに、目指す「草加っ子」（15歳の姿）の育成につながるように内容を充実させました。また、市内各園の実践を基に保育事例を増やし、5歳児の事例においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりを示しました。

本プランが、幼児教育と小学校以降の教育を結び、乳幼児期の子どもたちの経験を豊かにし、一層充実した保育・教育の実践へとつながることを心から願っております。

結びに、本プランの改定に当たり、ご指導をいただきました埼玉大学教育学部教授 首藤敏元様、國學院大學人間開発学部教授 田村学様、ベネッセ教育総合研究所主席研究員 木村治生様をはじめ、貴重な情報提供及びご意見をいただきました草加市子ども教育連携推進委員会専門部会の委員の皆様、に、厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

草加市教育委員会

教育長 高木宏幸

草加っ子 にこにこ わくわく プランのポイント

子どもたちの育ちをめぐる現状

- 少子化、核家族化、地域社会の変容、都市化、情報化等
→ 子育ての孤立化、安心して遊べる場や、様々な人と関わる機会の減少
- 子育てや教育についての価値観の多様化、親としての役割等について学ぶ機会の減少
- 基本的な生活習慣の習得が不十分なケースや、いわゆる「小1プロブレム」の発生

乳幼児期の教育の重要性

- 乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期
- 乳幼児期の子どもは、生活や遊びにおける直接的・具体的な経験を通して、情緒的・知的な発達や社会性を養い、人間として、社会の一員として、よりよく生きていくための基礎となる力を獲得

草加っ子 にこにこ わくわく プランとは

草加市において、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校が連携を図り、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる草加っ子」を育むために、特に人間形成の基礎が培われる乳幼児期において、子どもたちに経験させたい内容を、発達段階や乳幼児期の教育の実施時期ごとに示したもの

草加っ子 にこにこ わくわく プランのねらい

- ①生活する力、人とのかかわる力、自ら学ぶ力に関わる経験を重点的に示すことで、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる草加っ子」を育む
- ②子どもたちに経験してほしい、生活や遊びにおける直接的・具体的な経験を示すことで、生きる力の基礎となる資質・能力を育む

知識・技能の基礎

遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったのか

思考力・判断力・表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか

学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか

草加っ子 にこにこ わくわく プラン

- 各年齢の期等の分け方
【0歳児・1歳児】月齢によって発達の様子が大きく異なり、個別の保育・教育が中心であるため、子どもの月齢ごとに保育計画・指導計画を示す（9区分）
【2歳児以降】一人ひとりの発達の様子に配慮しつつ、クラス全体で活動することが多くなるため、クラスで活動が行われる時期にあわせて（3か月ごと）、保育計画・指導計画を示す（14区分）
- 草加っ子 にこにこ わくわくプランの見方
各期の保育計画・指導計画では、「子どもの姿」「ねらい」「経験させたい内容」「環境の構成」「保育者の関わり」「食育」「家庭との連携」について目安やポイント等を示す

目次

はじめに	1
1 草加っ子 にこにこ わくわくプランの概要について	4
(1) 子どもたちの育ちをめぐる現状	4
(2) 乳幼児期の教育の重要性	4
(3) 「草加っ子 にこにこ わくわくプラン」とは	4
(4) 「草加っ子 にこにこ わくわくプラン」のねらい	4
2 目指す「草加っ子」(15歳の姿)について	5
3 幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基本的な事項について	6
4 草加っ子 にこにこ わくわくプランについて	7
(1) 各年齢の期等の分け方について	7
(2) 保育計画・指導計画の見方	7
(3) 各期の保育計画・指導計画	8
57日～3か月未満	8
3か月～6か月未満	9
6か月～9か月未満	10
9か月～1歳未満	11
1歳～1歳3か月未満	12
1歳3か月～1歳6か月未満	13
1歳6か月～2歳未満	14
2歳～2歳6か月未満	15
2歳6か月～3歳未満	16
2歳児1期(4月～6月)	23
2歳児2期(7月～9月)	24
2歳児3期(10月～12月)	25
2歳児4期(1月～3月)	26
3歳児1期(4月～6月)	33
3歳児2期(7月～9月)	34
3歳児3期(10月～12月)	35
3歳児4期(1月～3月)	36
4歳児1期(4月～6月)	43
4歳児2期(7月～9月)	44
4歳児3期(10月～12月)	45
4歳児4期(1月～3月)	46
5歳児1期(4月～6月)	53
5歳児2期(7月～9月)	54
5歳児3期・4期(10月～3月)	55
5 委員名簿・審議経緯	65
(1) 平成26年度委員名簿	65
(2) 平成27年度委員名簿	65
(3) 令和元年度委員名簿	66
(4) 審議経緯	66

1 草加っ子 にこにこ わくわくプランの概要について

(1) 子どもたちの育ちをめぐる現状

少子化、核家族化、地域社会の変容、都市化、情報化、グローバル化等により、社会環境が大きく変化する中、乳幼児期の子どもたちの育ちをめぐることは、子育ての孤立化、子どもたちが安心して遊べる場の減少、子どもたちが様々な人と関わるができる機会の減少等が見られます。

一方、家庭における子育てや子どもの教育についての価値観は多様化しています。また、親としての役割や子どもとの関わり方について学んだり知識を得たりすることができる機会が限られているという現状があります。

このような中、草加市の乳幼児期の子どもたちの育ちの現状をみると、基本的な生活習慣の習得が不十分なケースがあったり、また、就学時には、いわゆる「小1プロブレム」の発生が見られたりしており、これらの課題は、その後の学習の習得に影響を与えることも考えられます。

(2) 乳幼児期の教育の重要性

人の一生において、乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、そのことは教育基本法にも示されています。

乳幼児期の子どもは、生活や遊びにおける直接的・具体的な経験を通して、情緒的・知的な発達や社会性を養い、人間として、社会の一員として、よりよく生きていくための基礎となる力を獲得していきます。

(3) 「草加っ子 にこにこ わくわくプラン」とは

草加市において、幼保小中を一貫した教育を通して「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる草加っ子」を育むために、特に人間形成の基礎が培われる乳幼児期において、子どもたちに経験させたい内容を、発達段階や乳幼児期の教育の実施時期ごとに示したものです。

(4) 「草加っ子 にこにこ わくわくプラン」のねらい

- ①生活する力、人とのかかわる力、自ら学ぶ力に関わる経験を重点的に示すことで、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる草加っ子」を育みます。
- ②子どもたちに経験してほしい、生活や遊びにおける直接的・具体的な経験を示すことで、生きる力の基礎となる資質・能力を育みます。

2 目指す「草加っ子」(15歳の姿) について

草加市では、幼保小中を一貫した教育を通して、次に掲げる目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育みます。

目指す「草加っ子」(15歳の姿)

「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子

「自ら学び」

- ・ 基礎的、基本的な知識や技能を身に付け、活用することができる
- ・ 意欲や目標をもって自分から活動や学習に取り組むことができる
- ・ 人の話をしっかりと聞くことができる
- ・ 自分の考えをしっかりと伝えることができる

「心豊かに」

- ・ 自分を大切な存在だと思えることができる(自己肯定感の育成)
- ・ 他人を大切にし、思いやることができる
- ・ 時と場に応じ、自分の感情を抑えたり我慢したりすることができる
- ・ 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重できる
- ・ 時と場に応じた、あいさつ、返事がきちんとできる
- ・ ありがとう、ごめんなさいを素直に言うことができる
- ・ 時と場に応じた、ていねいな言葉づかいができる
- ・ 良いこと、悪いことの区別が付き、社会や学校、家庭のきまりを守ることができる
- ・ 情報モラルを守り、メディアと適切に関わるることができる

「たくましく」

- ・ 「早寝早起き朝ごはん」の習慣が身に付いている
- ・ 時と場に応じた身だしなみを整えることができる
- ・ 身の回りの整理整頓ができる
- ・ みんなで使う場所をきれいにすることができる
- ・ 見通しをもって生活し、時刻を守ることができる
- ・ めあてをもって運動に取り組むことができる
- ・ あきらめず、ねばり強く、ものごとに取り組むことができる

3 幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基本的な事項について

幼稚園教育要領・保育所保育指針等で示された目標等の基本的な事項を整理しました。これらを踏まえて保育計画・指導計画を立てていくことが大切です。

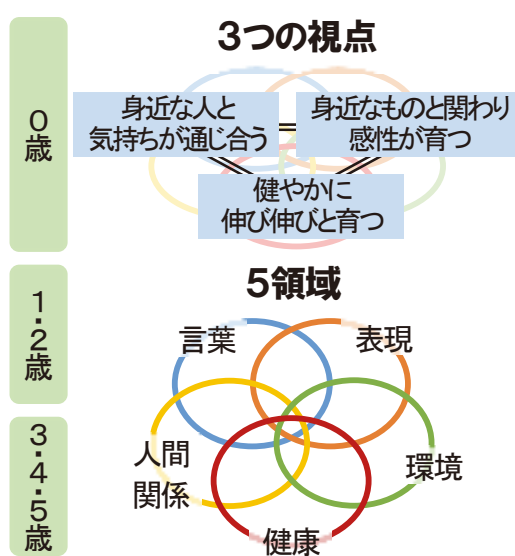
生きる力の基礎 ← **保育・教育の目標です。**

資質・能力の3つの柱

知識・技能の基礎

遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったのか

遊びを通しての総合的な指導



思考力・判断力・表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか

学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかにによりよい生活を営むか

「目標」ではなく「姿」です。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が現れて来ることを意識して、保育を構想・反省。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- ・資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿
- ・5歳児後半に見られるようになる姿



①健康な心と体

③協同性

⑤社会生活との関わり

⑦自然との関わり・生命尊重

⑨言葉による伝え合い

②自立心

④道徳性・規範意識の芽生え

⑥思考力の芽生え

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑩豊かな感性と表現



4 草加っ子 にこにこ わくわくプランについて

(1) 各年齢の期等の分け方について

子どもの発達段階や、市内の各園での保育・教育の実施状況を踏まえ、次のとおりに分けています。

●0歳児・1歳児

0歳児・1歳児クラスでは、同じクラスの子どもでも生年月日によって月齢が異なり、その違いによって発達の様子が大きく異なります。そのため、個別に対応する保育・教育が中心となります。

そこで、以下の区分で子どもの月齢ごとに保育計画・指導計画を示しています。

0歳児・1歳児		57日～ 3か月未満	3か月～ 6か月未満	6か月～ 9か月未満	9か月～ 1歳未満
	1歳～ 1歳3か月未満		1歳3か月～ 1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	
	2歳～2歳6か月未満			2歳6か月～3歳未満	

●2歳児以降

2歳児以降のクラスでは、一人ひとりの発達の様子を配慮しつつ、クラスを単位として活動することが多くなります。

そのため、クラスで活動を行う時期にあわせて、以下の区分で保育計画・指導計画を示しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2歳児	1期			2期			3期			4期		
3歳児	1期			2期			3期			4期		
4歳児	1期			2期			3期			4期		
5歳児	1期			2期			草加市幼保小中一貫教育プログラム 「2 アプローチカリキュラム」					

(2) 保育計画・指導計画の見方

子どもの姿	各発達段階や各時期における、子どもの発達の様子の目安を記載しています。
ねらい	各発達段階や各時期における、指導の主なねらいを記載しています。
経験させたい内容	各発達段階や各時期における、子どもたちに経験させたい内容を、「生活する力」「人とのかかわる力」「自ら学ぶ力」の観点から記載しています。
環境の構成	各発達段階や各時期における、望ましい環境構成について記載しています。
保育者の関わり	各発達段階や各時期における、望ましい保育者の関わりについて記載しています。
食育	各発達段階や各時期における、食育の観点からの取組のポイントを記載しています。
家庭との連携	各発達段階や各時期における、家庭との連携のポイントを記載しています。

(3) 各期の保育計画・指導計画



57日～3か月未満

子どもの姿	・お腹が空いたり、オムツが濡れたりすると、泣いて訴える。 ・首がすわり始める。 ・身長、体重の増加が大きい。 ・音のする方を向いたり、物を目で追うようになる。
ねらい	・一人ひとりが安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。 ・保育者に欲求を受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・安心して寝入ったり、目覚めたりする。 ・オムツや衣服を替えてもらい、清潔になる心地よさを感じる。 ・落ち着いた雰囲気の中で、抱かれたり、あやされたり、語りかけられたりして安定して過ごす。 ・話しかける大人をじっと見つめると、ゆったりと笑顔で応えてくれる。 ・音や声に反応して顔を向けると、大人が共感的に応えてくれる。 ・外気に触れ、日光や風の心地よさを感じる。 ・手に触れたものを握ろうとして、様々な感触を味わう。
環境の構成	・室温・湿度・換気・採光に気を配り、室内・玩具を清潔に保つ。静かな落ち着いた環境で、安心して眠ることができ、睡眠がたっぷりとれるようにする。 ・うつぶせ寝は避け、顔の周りに布団や物がない状態をつくり、SIDS（乳幼児突然死症候群）には細心の注意を払う。
保育者の関わり	・身体機能が未熟で病気にかかりやすいため、体調の急な変化に対応できるよう、一人ひとりの子どもの状態を十分に観察する。 ・優しく微笑みかけたり、穏やかに語りかけたりして、愛着関係を築く。 ・子どもの泣いている様子やしぐさから不快な状態や空腹をくみ取り、思いや欲求を受け止め、適切に応えていくようにする。
食育	・ゆったりした気持ちで顔を見ながら、母乳やミルクを飲ませる。 ・子どもの欲求に応じた調乳を心がけ、授乳後は、ゲップが出るまで抱いて過ごす。
家庭との連携	・育児に対する不安や戸惑いを受け止め、送迎時の短い会話の中でも、園での様子を知らせて、保護者との温かい関係をつくる。

3か月～6か月未満



0・1歳児

子どもの姿	・首がすわり、寝返りをするようになる。 ・昼夜の区別がつき始め、睡眠・授乳・遊びのリズムが少しずつ安定してくる。 ・物や人の動きを目で追い、手に触れたものを握ったりなめたりする。 ・表情や喃語で自分の欲求を伝えようとする。
ねらい	・寝返りや腹ばいなど、発達にあった活動を十分に行う。 ・眠る・飲む・遊ぶなど、安定した生活リズムで安心して過ごす。 ・安心できる環境で、見たり、触ったりなどできる玩具で遊ぶことを楽しむ。 ・あやされたりすることを喜び、自分でも声を出すことを楽しむ。
経験させたい内容 生活する力 人とかわる力 自ら学ぶ力	・気持ちよく眠ったり、目覚めたりする。 ・腹ばいの姿勢で手足を動かして遊ぶ。 ・ベビーマッサージ等のスキンシップを通して、肌の触れ合いの温かさや心地よさを感じる。 ・声や泣き声で要求を表す。 ・あやされたり、喃語に答えてもらったりして、保育者に親しみ、親近感をもつ。 ・動くものを目で追い、つかもうとして遊ぶ。 ・手に触れたものを見たり、なめたりして、確認する。
環境の構成	・寝返り、腹ばいなど、全身運動が安全にできる環境を整える。 ・触ったりなめたりしても安全な玩具を用意する。 ・音が出るものや握りやすい玩具を用意し、遊ぶ楽しさを知ることができる環境をつくる。 ・目の前のものに向かって意欲的に手を伸ばすので、操作する力に結び付けられるような玩具を用意する。 ・清潔で安心して眠りにつけるような環境を整える。 ・うつぶせ寝は避け、顔の周りに布団や物がつかからない状態をつくり、SIDS（乳幼児突然死症候群）には細心の注意を払う。
保育者の関わり	・寝返りや腹ばいの機会を多くつくるようにする。 ・笑ったり泣いたりする子どもに優しく応え、発声に応答しながら喃語を育む。 ・優しくあやされたり目を見て語りかけられたりする心地よさを味わえるように、1対1の関わりを大切にする。
食育	・安心とやすらぎの中で母乳やミルクを飲む心地よさを味わう。 ・目と目を合わせ、優しい声かけとぬくもりを通して、ゆったりと母乳やミルクを飲むことで、心の安定を育む。
家庭との連携	・安定した生活リズムをつくっていくことが大切なことを伝える。 ・保護者の言葉かけやスキンシップが子どもの心の安心、安定につながることを伝える。



6か月～9か月未満

子どもの姿	・寝返り、腹ばいの姿勢ですって移動し、おすわりができるようになる。 ・離乳食が進み、少しずつ食べる量が増える。 ・身近な人の顔が分かり、慣れない人に人見知りをする。 ・さかんに喃語を話し、要求を表す。
ねらい	・腹ばい、寝返り、おすわりなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな食品の味や形態にふれる。 ・保育者と十分関わり、欲求を受け止めてもらうことで、親しみをもち安定して過ごす。 ・保育者の語りかけを喜び、自分でも声を出すことを楽しむ。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・一定の生活リズムで安心して眠る。 ・離乳が進み、少しずつ食べる量が増え、いろいろな食品の味や形態に慣れる。 ・腹ばいでお腹を軸に回ったり、後ずさりをしたり、おすわりをしたりする。 ・喃語や片言を優しく表情豊かに受け止めてもらい、言葉に置き換えながら対応してもらうことで、保育者とのやり取りを楽しむ。 ・人見知りをしたり、親しみをもっている人のあと追いをしたりする。 ・他の子どもにも関心をもち、同じ物を見つめたり同じ玩具を手にしたりする。 ・見た物に興味を示して手に取り、口で噛んだり、なめたりして遊ぶ。 ・保育者の歌やリズムに合わせて、体を動かすことを楽しむ。
環境の構成	・誤飲などを避けるために、口や鼻に入らない大きさの玩具を用意する。 ・子どもが興味をもてる玩具を、子どもから見えたり、触れたりできる場所に用意する。 ・持ち替えのしやすい玩具や、手に持ってたたき合わせて遊べる玩具を用意し、両手がほぼ同じように使えることを大切にする。 ・おすわりができ始める頃は、転倒時の安全に注意する。
保育者の関わり	・感染症にかかりやすい時期なので、一人ひとりの健康状態を十分に観察し、適切に対応する。 ・愛着関係を築けるよう、特定の保育者が関わりを多くもち、子どもの要求を受け止めていく。 ・子どもの気持ちに共感し、子どもの声や行為に言葉を添えていくことで、遊ぶ意欲を育てていく。
食育	・少しずつ食べ物に親しみながら、おいしく食べた満足感に共感することで、食べる意欲を育てていく。 ・子どもの様子を見ながら、離乳食を1日1回1さじずつから始め、徐々に1日2回食のリズムをつくっていく。
家庭との連携	・母体からの免疫がなくなり、病気にかかりやすくなるので、感染症や予防接種などについて適時、情報を伝える。 ・人見知りは成長過程であり、愛着関係ができているからこそ見られる姿なので、十分受け止めるように知らせる。

9か月～1歳未満



0・1歳児

子どもの姿	・ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩きをしたり、指先で物をつまんだりできるようになる。 ・離乳食がさらに進み、食べられる食品の種類が増える。 ・自分の名前や「マンマ」「バイバイ」など音声と対象が結び付くようになってくる。
ねらい	・ハイハイやつかまり立ちなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・食べることに興味をもち、自分から口を開けて食べようとする。 ・周りのものに興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。
経験させたい内容 生活する力 人と かわる力 自ら学ぶ力	・一定時間、安定して眠る。 ・離乳が進み、食べられるものの種類が増え、自分から食べようとする。 ・おすわり、つかまり立ち、伝い歩きなど、発達に沿った動きをする。 ・身近な保育者に相手をしてもらうことを喜び、親しみをもって関わる。 ・保育者と一緒に、しぐさや喃語で、あいさつや物のやりとり（「ちょうだい」など）をする。 ・盛んに指差しをする。保育者から物の名前や、欲求の意味を伝えてもらうことで、徐々に理解する。 ・周りの生活用具に興味をもち、つまむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使ってじっくりと遊び込む。 ・保育者と一緒に絵本を見て、言葉そのものの音の響きや絵を楽しむ。
環境の構成	・長い距離をたくさんハイハイできるようになり、行動範囲が広がったり、つかまり立ちをするようになったりするので、余裕のあるスペースを確保し、不安定な物や角のある物は周囲に置かない。 ・誤飲、誤食を避けるため、口に入れて危険な物は、手の届くところに置かない。 ・子どもが興味をもてるように、玩具類に変化をもたせたり、工夫したりする。
保育者の関わり	・子どもが表現したことを受け止め、優しく、ゆっくり、はっきりと答えたり、語りかけたりすることで、子どもに安心感をもたせ、信頼感を育む。 ・伝い歩きが始まるが、ハイハイも十分に経験できるようにする。
食育	・自分で食べたり飲んだりしたいという意欲を大切にし、手を添えたり気持ちを添えた言葉をかけたりして、食べたり飲んだりできた喜びを感じられるようにする。 ・食事のリズムを大切にして、1日3回食へと近づけていく。
家庭との連携	・行動範囲が広がるので、手の届くところに危険なものを置かないことを知らせる。 ・つかまり立ちをし始める子もいるが、ハイハイを十分にすることが大切であることを知らせ、焦って立たせたり等しないよう、伝える。



1歳～1歳3か月未満

子どもの姿	・伝い歩きから一人歩きをするようになる。 ・離乳が進み、乳児食へと移行していく。 ・安心できる保育者に対し、自分の意思や欲求を、指差し、声、動作などで表せるようになる。
ねらい	・つかまり立ち、伝い歩き、一人歩きなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな食品の味や形に慣れ、食べることに興味をもち、自分から食べようとする。 ・身近な人や物に興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 ・保育者の語りかけを喜び、繰り返しのなかから身近な言葉を覚える。
経験させたい内容 生活する力 人とかわる力 自ら学ぶ力	・保育者に着替えさせてもらいながら、言葉かけに合わせた動作をする。 ・スプーンを持って食べようとしたり、コップを持って飲もうとしたりする。 ・保育者に見守られて、一人遊びを満足するまで楽しむ。 ・室内や戸外で探索活動を十分ににする。 ・保育者と一緒にしぐさや片言であいさつをする。 ・保育者に絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 ・欲しいものを指差したり、声や動作で伝えようとしたりする。 ・くすぐり遊び、ゆさぶり遊び、わらべ歌など身体でリズムや言葉の繰り返しを感じて楽しむ。
環境の構成	・一人歩きをするようになり、動きが大きくなるので、余裕のあるスペースを確保し、不安定な物や角のある物は周囲に置かない。 ・口に入れると危険な物は、手の届くところに置かない。 ・園庭は一人歩きや砂遊びが楽しめるように、日頃から危険なものを取り除き、安全で衛生的な遊び場にしておく。 ・玩具は一人ひとりが遊べるように、人数に合わせて用意し、玩具の棚等は、子どもが取り出しやすく、片付けやすい高さや奥行にする。
保育者の関わり	・子どもが自分からしてみようとする気持ちを大切に、温かく見守る。 ・大人の動作を真似る時期であるので、保育者は言葉や動作をゆっくり大きく分かりやすく表現する。 ・子どもの指差しを受け止め、次につながるような言葉がけをする。 ・子どもが食べている時、誤飲やのどへのつまりに注意し、目を離さないようにする。
食育	・食事やおやつの際に自分の手で持って食べやすいものを用意し、自分で食べる喜びを味わえるようにする。
家庭との連携	・一人歩きが始まり、転ぶことも多いが、探索活動を十分にすることで社会性が広がることを知らせる。 ・子どもの自ら食べようとする意欲や行動を大切にして援助することを知らせる。

1歳3か月～1歳6か月未満



0・1歳児

子どもの姿	・転ばずに歩いたり、しゃがんだりすることができるようになってくる。 ・物をやりとりしたり、取り合ったりするなど、人との関わりが生まれてくる。 ・保育者の言うことが分かるようになり、指差しや身振りなどで示そうとする。
ねらい	・歩くことや自由に体を動かすことを楽しむ。 ・周りの様々なものにふれて遊び、外界に対する好奇心や関心をもつ。 ・保育者との信頼関係が深まる中で、自分の気持ちを安心して表す。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・室内や戸外で一人歩きや体を動かすことを十分に楽しむ。 ・保育者に着替えさせてもらいながら、手や足を通そうとする。 ・保育者に手を洗ってもらい、きれいになった気持ちよさを経験する。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・保育者に見守られて、一人遊びを満足するまで楽しむ。 ・周囲のものにふれて遊び、手触り、重さ、形など、様々な発見を楽しむ。 ・保育者の言葉やしぐさをじっと観察し、真似て楽しむ。 ・歌や音楽を聴いたり、音に合わせて体を動かしたりすることを喜ぶ。
環境の構成	・口に入れると危険なものは、手の届くところに置かない。 ・園庭は、一人歩きや砂遊びが楽しめるように、遊具の点検をこまめに行い、危険なものを取り除き、安全で衛生的な遊び場にしておく。 ・一人遊びがじっくりできるよう場所を整え、玩具の数を十分に用意し、子どもが取り出しやすいように玩具の置き場所を身近にする。
保育者の関わり	・周りの安全には十分に気を配り、危険なことやいけないことをしたときには、分かりやすく話して伝える。 ・子どもが食べている時、誤飲やのどへのつまりに注意し、目を離さないようにする。 ・子どもの欲求を先取りしないように待ち、うまく表現できないときは子どもの気持ちを察し、相づちを打ったり言葉で表現してあげたりして、自分から表現しようとする気持ちを育てる。
食育	・自分で食べようとする姿を見守りながら、食べやすい量をスプーンにのせたり、子どもの様子を見て手を添えて食べさせたりする。 ・笑顔で「おいしいね。」と言葉をかけ、楽しく食事ができるようにする。
家庭との連携	・危険なことをしたときには、「まだ幼いから分からない」と思い込まず、「なぜいけないか」を分かりやすく伝えることが大切であることを知らせる。



1歳6か月～2歳未満

子どもの姿

- ・ふたを開ける、シールを貼るなど、手先を使う機能が発達する。
- ・片言や二語文を話し始める。
- ・自我が芽生え、何でも自分でやろうとする。
- ・だだこねをする。

ねらい

- ・身の回りの簡単なことを自分でやろうとする。
- ・簡単な言葉の繰り返しや模倣により言葉を使うことを楽しむ。

経験させたい内容

生活する力

人と
かかわる力

自ら学ぶ力

- ・衣服や靴の着脱、食事を自分でしようとする。
- ・オムツが濡れていないときなどに、保育者に声をかけられてトイレに行ってみる。
- ・「待っててね。」などの保育者の言葉がけが分かり、行動しようとすることで、生活にはきまりがあることに気付く。
- ・ねじる、ひねる、シールを貼るなど、手指を使って遊ぶ。
- ・保育者と一緒に簡単なあいさつをする。
- ・知っているものの名前を言おうとする。
- ・保育者に絵本を読んでもらい、音のリズムや簡単な内容を楽しむ。
- ・保育者と一緒に、クレヨンなどで思いのままになぐりがきをして楽しむ。
- ・興味のあることや経験したことなどの再現遊びを楽しむ。

環境の構成

- ・園庭は、危険なものを取り除き、安全で衛生的な遊び場にしておく。
- ・再現遊びが楽しめるように、人形やぬいぐるみ、おんぶひも、手さげ袋、ままごと玩具、エプロン等を用意する。
- ・子どもの試そうとする気持ちが満たされるよう、いろいろな生活用具、保育用具、材料を用意する。
- ・玩具は、子どもが取り出しやすく片付けやすい場所に置く。
- ・オマルを使用しやすいように、トイレの環境を整える。

保育者の関わり

- ・子どもの言おうとしている言葉を察し、受け入れ、代弁していく。
- ・自我が著しく現れ始めるので、子どもの気持ちを受け止めて信頼関係を築き、行動との折り合いが付けられるようにしていく。
- ・遊びの区切りには子どもと一緒に玩具を片付け、次の活動に移行する。

食育

- ・スプーンを使って自分で食べようとする意欲を高める言葉かけをする。
- ・食後、自分で口の周りを拭けるように、おしぼりを用意する。

家庭との連携

- ・オムツをはずす時期は、園と家庭が同じ気持ちで焦らずに進めていくことを伝える。
- ・子どもが自分でやろうとするを見守り、励ましながら自我の芽生えを育てていくことと、いけないことはいけないと子どもに教えていくことを伝える。

2歳～2歳6か月未満



子どもの姿	・おしっこが出ると知らせるしぐさをする。 ・走ったり、跳んだりすることができるようになる。 ・「これなあに」などの質問をするようになる。 ・自分が嫌なことに対しては、「イヤ」と言うようになる。
ねらい	・保育者に手伝ってもらいながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ・戸外や室内で体を十分に動かして遊ぶ。 ・自分がしてほしいことを言葉で伝えようとする。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・戸外や室内で走ったり跳んだりして遊ぶ。 ・簡単な衣類は自分で脱げるようになり、保育者に手伝ってもらいながら衣服を着ようとする。 ・便意や尿意を、しぐさや言葉で知らせる。 ・保育者や友達の名前が言えるようになり、他の子どもと関わりをもって遊ぶ。 ・積み木などの玩具や遊具を使って見立て遊びや、つもり遊びをする。 ・自分の気持ちを言葉で言おうとする。 ・粘土をちぎったり、丸めたりなど、手指を使った遊びを楽しむ。 ・簡単な歌やリズム遊びを楽しむ。
環境の構成	・体全体を使って思う存分遊べる機会を増やす。 ・再現遊びを楽しめるように、人形やぬいぐるみ、おんぶひも、手さげ袋、ままごと玩具、エプロン等を用意する。 ・見立て遊びに必要な玩具を用意する。 ・玩具は、一人ひとりが楽しめる数を用意し、子どもが取り出しやすく、片付けやすい場所に置き、好きな遊びが選べるように、いろいろな遊びの道具やコーナーを用意する。
保育者の関わり	・子どもの話は優しく受け止め、自分から話したいという気持ちになるように配慮し、楽しんで言葉が使えるようにする。 ・子ども同士の思いがぶつかり合い、トラブルになった時には、お互いの気持ちを受け止め、分かりやすい言葉で仲立ちをして、友達との関わり方を知らせていく。
食育	・スプーンやフォークを使って、こぼしながらも自分で食べようとする気持ちを受け止めていく。 ・食前、食後に「いただきます」「ごちそうさまでした」をしぐさや言葉で言う習慣を身に付けていく。
家庭との連携	・自己主張が激しくなり、大人を困らせることが多くなるが、それは発達の道筋であり、子どもの成長として受け止められるように伝える。 ・安全に体を使った遊びができるように、動きやすい服装や靴を用意してもらうように伝える。

2歳6か月～3歳未満



子どもの姿

- ・トイレに行き、排泄できるようになる。
- ・片足立ちや両足をそろえて跳べるようになる。
- ・「どうして」などの質問をするようになる。
- ・なんでも自分でやろうとするが、思い通りにならず、イライラする。
- ・積み木で形のあるものを作る。
- ・見立て遊び、つもり遊びをする。

ねらい

- ・身の回りのことを自分でしようとする。
- ・全身や手指を使った遊びを楽しむ。
- ・保育者や友達と簡単なやりとりをしたり、模倣遊びをしたりする。

経験させたい
内容

生活する力

人と
かかわる力

自ら学ぶ力

- ・戸外や室内で全身を使って遊ぶ。
- ・簡単な衣類を自分で着たり脱いだりする。
- ・保育者の言葉かけでトイレに行き、見守られて排泄する。
- ・保育者の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身に付ける。
- ・保育者と見立て遊び、つもり遊びなどをする中で、言葉のやりとりを楽しむ。
- ・生活や遊びの中で色や形に興味をもったり、物の大小に気付いたりする。
- ・絵本の中の簡単な言葉を繰り返して楽しむ。
- ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。

環境の
構成

- ・体を使って思う存分遊べる機会を多くする。
- ・見立て遊びやつもり遊びが楽しくなるような玩具などを用意する。
- ・玩具は、一人ひとりが楽しめる数を用意し、子どもが取り出しやすく、片付けやすい場所に置く。
- ・なんでも自分でやろうとするようになるので、着替えの衣服を、子どもが取り出しやすい場所に置いたり、排泄を知らせてきた時に、すぐにトイレに行けるようにしたりするなど、身辺自立に向けた環境を整える。

保育者の
関わり

- ・子ども同士のぶつかり合いが見られるが、相手の気持ちに気付けるようにしていく。
- ・遊びの中に保育者も入り、子どもたちのイメージが合うようにしていく、子ども同士の関わりがうまくもてるようにしていく。

食育

- ・「これなあに。」などの子どもの言葉に答えたり、「おいしいよ。」と保育者が食べる姿を見せたりして、いろいろな食べ物に興味をもてるようにしていく。

家庭との
連携

- ・子どもの自己主張が強くなり、何でもやりたがって、保護者が子育てに悩む時期なので、大変な時期でも、保護者が子どもを「可愛い」と思うことができるように援助する。

2歳児1期（4月～6月）



2歳児

子どもの姿	・跳ぶ、走る、登るなどの運動機能が発達する。 ・食事、着替え、排泄など身の回りのことを自分でやりたがり、保育者に手伝ってもらいながら行う。 ・自我が強くなり、思い通りにならないと、かんしゃくを起こすなどする。
ねらい	・保育者に欲求を受け止めてもらい、安心して生活する。 ・保育者に身守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ・保育者や友達に親しみをもち、一緒に遊ぶことを楽しむ。
経験させたい内容 生活する力 人とかわる力 自ら学ぶ力	・跳ぶ、走る、登るなど、戸外や室内で体を動かして遊ぶ。 ・保育者の声かけでトイレに行き、見守られながら排泄する。 ・保育者に手伝ってもらいながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ・保育者を仲立ちとして、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 ・友達のやっている遊びを真似て、同じ遊びをしようとする。 ・新しい場所や人に慣れ、好きな玩具や遊具で遊ぶ。 ・春の自然や草花などに興味をもち、見たり触れたりする。 ・生活の中で、簡単なあいさつや返事をする。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かるようになる。 ・保育者に好きな絵本を読んでもらったり、歌や手遊びを楽しんだりする。 ・保育者と一緒に、土や砂などに興味をもち、触れて遊ぶ。
環境の構成	・ゆったりとした雰囲気づくりをしたり、親しみのある玩具や遊具を用意したりして、安心して生活が送れるようにする。 ・好きな遊びが選べるように、いろいろな玩具や遊具、コーナーを用意する。 ・自分の持ち物や玩具を片付ける場所が分かるように、マークを付けたり、写真を貼ったりする。
保育者の関わり	・一人ひとりの気持ちを大切に受け止め、子どもとの信頼関係を築いていく。 ・トイレやお昼寝などが安心してできるように、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりをする。 ・「～しようね。」など、自分でやってみようという意欲がもてるような前向きな言葉かけをする。
食育	・食器に手を添えて食べられるように、発達に合わせたスプーンやフォークを準備する。 ・保育者も一緒に食べる中で、「おいしいね。」など、会話をしながら、楽しい雰囲気ですることができるようしていく。
家庭との連携	・早寝早起き朝ごはんなど、この時期の子どもに合わせて生活リズムを整えることを啓発する。 ・自我がめばえ、何でも自分でやりたがるが、うまくいかず失敗すること多い時期だということを知らせる。 ・子どもの、「自分でやりたい」という気持ちを大切に、失敗を繰り返しながらも自分でやったという満足感が得られるような経験をさせることで意欲が育つことを伝える。



2歳児2期（7月～9月）

子どもの姿	・全身を使う運動が活発にできるようになる。 ・食事、着替え、排泄など身の回りのことを、保育者に見守られながら、自分でしようとする。 ・自我が強くなり、こだわりや自己主張が表れ、思い通りにならないと、かんしゃくを起こしたり、反抗したりする。
ねらい	・水や土の感触を味わいながら、夏の遊びを十分楽しむ。 ・簡単な身の回りのことをやろうとする。 ・保育者を仲立ちにして、言葉のやりとりを楽しみながら、友達と関わって遊ぶ。
経験させたい内容 生活する力 人とかわる力 自ら学ぶ力	・跳ぶ、走る、登るなど、戸外や室内で体を動かして遊ぶ。 ・自分からトイレに行き、保育者に見守られながら排泄をする。 ・保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ・保育者や友達との関わりを深めながら、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者の仲立ちにより、自分の思いと友達の思いは違うことに気付く。 ・生活や遊びの中で、「順番」や「待つ」などのきまりがあることを知る。 ・積み木などの玩具や遊具を使って、保育者と一緒に見立て遊び、つもり遊びなどを楽しむ。 ・夏の自然に関心をもち、保育者と一緒の水遊び、砂遊び、泥遊びを楽しむ。 ・自分のしたいことやしてほしいことを、言葉やしぐさで伝えようとする。 ・絵本を喜び、その中の簡単な言葉を繰り返したり模倣したりして楽しむ。 ・クレヨンや絵の具などで、思いのままに塗ったり描いたりする。 ・粘土を丸めたり伸ばしたりして楽しむ。
環境の構成	・見立て遊びが楽しくなるような物を用意する。 ・水、砂、土などに触れる環境を用意する。 ・プール遊びでは、転倒を防ぐために周りに滑りにくいものを敷いたり、水位や保育者の配置などに注意する。 ・着替えや持ち物などを、子どもが自分で取り出しやすいように工夫をする。
保育者の関わり	・身の回りのことを自分でやろうとする気持ちを大切に、ゆとりをもって見守ったり、励ましたりしながら意欲につなげていく。 ・一人ひとりの健康状態を把握し、水分補給や活動と休息のバランスに配慮する。 ・子ども同士の自我のぶつかり合いの場面では、一人ひとりの思いを受け止めながら、根気強く相手の気持ちに気付けるようにしていく。 ・やって良いことといけないことを、言葉と表情で繰り返し伝えていく。
食育	・あいさつや食器に手を添えるなど、食事のマナーを知らせる。 ・食材を間近に見たり触れたりできる環境をつくり、食材への興味をもたせる。
家庭との連携	・保護者を困らせるような行動が多くなるが、成長の過程であることを伝え、それを受け止め、ゆとりをもって関わる大切であることを伝える。 ・子どもの気持ちを受け止める時には、子どもを抱きしめてあげることも必要だということを知らせていく。 ・しつけの基本は保護者が手本を示すことだと伝えていく。

2歳児3期（10月～12月）



2歳児

子どもの姿	・走る、跳ぶ、片足立ちをするなど、運動能力が発達する。 ・食事、着替え、排泄など、簡単な身の回りのことを、自分でできることは自分でできるようになる。 ・自己主張が強くなり、友達とのぶつかり合いが多くなる。
ねらい	・全身を使った活動的な遊びを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でやろうとする。 ・生活や遊びの中で、保育者や友達と関わり、簡単な言葉のやり取りを楽しむ。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・全身を動かす遊びや登る、降りるなどの動作を伴う遊びを楽しむ。 ・尿意や便意を感じたら保育者に知らせ、自分からトイレに行く。 ・友達と玩具の取り合いになった時など、保育者を仲立ちとして、相手も同じ思いをしていることを知る。 ・秋の自然に関心をもち、葉っぱや木の実などを集めたり、それを使って遊んだりすることを楽しむ。 ・「貸して。」「入れて。」など自分の思いを少しずつ言葉にして、保育者や友達に伝えようとする。 ・保育者に「なぜ。」「どうして。」と尋ね、知ろうとする。 ・保育者が仲立ちとなり、友達と見立て、つもり遊びを楽しむ。 ・リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。
環境の構成	・動きが活発になるので、子どものけがに注意し、安全にのびのびと遊べるようにする。 ・見立て遊びやつもり遊びが楽しくなるように、布、紙、容器、キャップ、自然物（ドングリ、マツボックリ）などを用意しておく。
保育者の関わり	・基本的生活習慣については、自分でできたことを褒めたり認めたりして自信となるようにし、自分でやろうとする意欲を育む。 ・「なぜ」「どうして」などの子どもの疑問に対して、丁寧に答えたり一緒に考えたりしながら、周りのものへの興味・関心につながるようにする。 ・見立て遊びやつもり遊びに保育者も入り、子ども同士が関わりやすくなるようにする。また、いろいろな素材や道具を用意し、子どものイメージに合うようにしたり、その子なりの遊び方を一緒に楽しみ、認めていく。
食育	・食後のブクブクうがいを、まず保育者がやってみせ、やり方を知らせていく。 ・スプーンやフォークの持ち方は、保育者が手を添えたり、やってみせたりして知らせていく。
家庭との連携	・してはいけないことなどについては、子どもの気持ちをしっかり受け止めてから、子どもにも分かるようにきちんと理由を話していくことが大事だと伝える。 ・手洗いやうがいなど清潔について、習慣付けることの大切さを伝える。



2歳児4期（1月～3月）

2歳児

子どもの姿

- ・ボールを上に投げたり、蹴ったり、音に合わせて走ったり、止まったりするなどの運動機能が発達し、自分の思うように体を動かせるようになる。
- ・食事、着替え、排泄など、自分でできる身の回りのことは自分でするようにする。
- ・自分がしたいことや相手にしてほしいことを、簡単な言葉で伝えられるようになる。
- ・友達との関わりが増え、少人数でごっこ遊びをする。

ねらい

- ・全身や手指を使って、いろいろな遊びを楽しむ。
- ・保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。
- ・生活や遊びの中で、言葉のやりとりを楽しむ。
- ・興味のあることや経験したことを思い浮かべながら、友達とごっこ遊びを楽しもうとする。
- ・進級することを喜ぶ。

経験させたい内容

生活する力

人と
かかわる力

自ら学ぶ力

- ・戸外や室内で、ボール投げや追いかっこなど、体を動かして遊ぶ。
- ・保育者に見守られながら、一人で着替えをする。
- ・友達との関わりを通して、自分の思いを表情や言葉などで相手に伝えようとしたり、我慢したり、待ったりしようとする。
- ・幼児の部屋やトイレに慣れ、進級などに関心をもつ。
- ・冬の自然に関心をもち、雪、氷、霜などに触れて遊ぶ。
- ・形や大小、数の多少、色などに関心をもつ。
- ・保育者や友達と一緒に、絵本の登場人物や動物などの好きなものになりきることを楽しむ。
- ・粘土、絵の具、折り紙、のり、はさみなどの材料や用具を使い、自分なりに、作ったものに意味付けをする。

環境の 構成

- ・自然に親しみ、保育者と一緒に見たり、関わったりできる場を用意する。
- ・身近に経験したことを真似て、遊びが楽しめるような道具を用意する。
- ・異年齢（3歳以上児）と交流したり、次年度に使用する部屋で遊んだりして、進級することに安心と期待がもてるようにする。

保育者の 関わり

- ・一人ひとりの発達を丁寧にとらえ、必要に応じて手助けしたり、励ましたりし、自分でしようとする気持ちを育てる。
- ・トラブルの場面では、相手の気持ちが分かるように、根気強く丁寧に話していく。
- ・3歳児クラスの部屋の玩具に興味をもたせ、進級することを楽しみにできるように働きかけていく。

食育

- ・寒くても食事前の手洗いやうがいを進んでしようとする姿を励まして、習慣がくずれないようにする。
- ・一品食ではなく、交互に食べるように言葉かけをする。

家庭との 連携

- ・着替えなど身の回りのことを自分でやろうとする時期なので、脱ぎ着のしやすい衣服を準備してもらうことなどを伝える。
- ・日常の送迎時や保護者会の時などに、一人ひとりの成長の様子や発達の課題を伝え、成長した喜びをともに分かち合ったり、家庭での子育ての参考にしてもらったりする。

保育の時期

2歳児2期

経験させたい内容

保育者の仲立ちにより、自分の思いと友達の思いは違うことに気付く。

子どもの様子

- 2歳児、1歳児、0歳児が、夏のプール遊びを一緒に行った。
- 2歳児クラスは、ビニールプールの中で足をばしゃばしゃと動かしたり、水でっぼうで水をかけあったりしている。1歳児、0歳児は主にバケツの水に手をつけたり、保育者がかけるシャワーで遊んだりしている。
- 2歳児クラスのA児が、お座りをしている0歳児の頭の上から水をかけた。0歳児は驚いて動きが止まり、A児はニコニコ笑っている。0歳児はとうとう泣き出し、A児はキョトンとする。
- 一緒にいた保育者がA児に、「〇〇ちゃん、水をかけられてびっくりしちゃったんだって。A児は気持ちいいから水をかけてくれたんだよね。でも〇〇ちゃんはまだ小さくて顔に水がかかるのが怖いんだって。今度は気を付けようね。」と伝える。
- A児はコクリとうなずいた。そして次からは、0歳児が嫌がらないように、ゆっくり優しく水をかけ、一緒に遊ぶようになった。



保育のポイント

- 自分と相手の違いに気付き、自分は大きいクラスである自覚が少しずつ芽生えてくる頃である。
- 今まで大人や保育者にやってもらったことを真似て、手伝ってあげたい、教えてあげたいと年下の子にやってあげようとする姿が見られる。
- しかし、相手の立場に立って考えることはまだ難しく、思いが一方通行になるところがある。時には、親切心でやったことが裏目に出ることもあり、保育者の仲立ち等により、思いの違いに気付くようになる。
- 様々な経験や失敗をすることで、「次はどうだろう」と考えられるようになってくる。保育者が仲介者となり、本人と相手の気持ちを代弁することで、他者との関わり方、異年齢との関わり方がより良いものとなっていく。

保育の時期

2歳児3期

経験させたい内容

保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でやろうとする。

子どもの様子

- 月齢の高い子の中には、バランスをとりながら床にお尻をつけずにパンツを履ける子もいる。
- 自分で履けない子は、「やって、手伝って。」と訴えてくるので、背中を壁につけて履くように促すと、自分で履いてみようとする。
- なんとかバランスをとりながら履けると、「できた。」と表情も明るく笑顔で報告してきた。
- 保育者に「自分でできたね。」と褒めてもらい、満足げにズボン履いて遊びに加わった。
- 何度か体のバランスを崩し、よろけてしまうこともあったが、失敗しても泣くことなく、時間がかかっても自分で履こうとする姿が見られるようになった。



保育のポイント

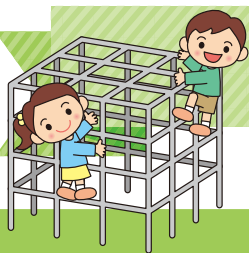
- 子どもが「自分で」「自分から」やろうとする気持ちのタイミングは、毎日の生活の中で保育者が読み取れるように、子どもとの会話や行動を見逃さない。
- 気持ちだけではなかなか「できた」につながらないので、体づくりや指先の遊びをたくさん経験させて、遊びの中で基礎づくりをしていく。
- 背中を支えやすいところには人気の絵やシールを貼るなど、保育室の環境づくりをしていく。
- 「できた」「できない」だけでなく、「できてうれしい」という気持ちを大切に、自信につなげられるように援助や言葉がけをすることが大切となる。
- 次の行動にスムーズに移れるように、毎日の遊びや生活の流れは固定して、子どもが一日の見通しをもてるように工夫する。
- 家庭と連携して、着脱しやすい衣服を用意してもらう。

3歳児1期（4月～6月）



3
歳
児

子どもの姿	・新しい生活や環境に、すぐに興味をもって遊び始める子どもや、泣いたり緊張した表情をしたり等、不安を示す子どももいる。 ・全身を使う遊びが活発になる。 ・好きな遊具や場を見つけ、自分のペースや思いで動く。
ねらい	・新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ・自分の好きな遊びや場を見付け、遊ぼうとする。 ・保育者に自分の気持ちを表す。 ・保育者や友達とふれ合い、一緒に過ごす中で親しみをもつ。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・新しい環境に慣れ、食事、排泄など、集団の中で基本的な生活の仕方を知る。 ・保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶ。 ・友達や保育者の名前や顔を覚え、親しみをもつ。 ・遊びの中で自分なりの言葉で表現しようとする。 ・春の自然物に興味をもち、見たりふれたりして遊ぶ。 ・鬼ごっこや追いかけてごっこなど、簡単なルールのある遊びを友達と一緒にすることを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を見たり、聞いたりして、読んでもらうことを楽しむ。 ・リズムや音楽に合わせて、体を動かすことを楽しむ。
環境の構成	・新しい環境で自分の生活する場所や物が分かるように、靴箱やロッカーなどに個別のマークを付け、安心して生活ができるようにする。 ・遊具を置く場所は、出し入れや片付けがしやすいようにしたり、分かりやすく表示を付けたりする。 ・興味をもった遊びを一人ひとりが十分にできるように、遊具の種類や数、配置の仕方などに配慮する。
保育者の関わり	・個人差に配慮しながら、一人ひとりの気持ちをしっかり受け止め、安心して生活できるようにする。 ・保育者も一緒に遊びながら、楽しさを共感する。
食育	・友達や保育者と一緒に食事をする喜びや楽しさを味わえるようにする。 ・うがいや手洗いを自分から行えるように見守る。
家庭との連携	・日中元気に過ごせるように、規則正しい生活を送り、「早寝早起き朝ごはん」を習慣にしていけるよう、家庭に働きかける。 ・家庭での生活を理解し、保護者の思いをくみ取り、子育ての喜びや悩みに共感して、信頼関係を築いていく。 ・保護者が安心できるよう、園での様子を伝え、きめ細やかなコミュニケーションを図る。



3歳児2期（7月～9月）

子どもの姿

- ・ ジャングルジムに登るなど、全身を使う運動が活発にできるようになる。
- ・ 身の回りのことや自分でできることを、保育者に見守られながら行う。
- ・ 自分が好きな遊びの場にいる友達と、関わって遊ぶことを楽しむ。
- ・ 園生活のおおよその流れが分かり、着替えなど自分でしようとする気持ちが高まる。

ねらい

- ・ 自分の好きな遊びを見付けて自分なりの遊び方で楽しむ。
- ・ 簡単な身の回りのことを、自分でしようとする。
- ・ 喜んで登園し、保育者や身近にいる友達と一緒に遊ぶことや関わることを楽しむ。
- ・ 遊びや生活を通して、約束や決まりがあることを知る。

経験させたい内容

生活する力

人と
かかわる力

自ら学ぶ力

- ・ 遊具を使ったり走ったりして、体を動かして遊ぶ。
- ・ 食事や排泄、手洗い、うがいなどを、保育者の声かけや援助により、自分でしようとする。
- ・ 自分のものや他の人のもの、みんなで使うものの違いが分かるようになる。
- ・ 「かして。」「いれて。」「ありがとう。」「じゅんばん。」「など、遊びに必要な言葉を知る。
- ・ 困ったことや、してほしいことを、保育者に自分なりの言葉やしぐさで表す。
- ・ 身近な小動物や草花、野菜を見たりその成長にふれたりして、興味や関心をもつ。
- ・ 音楽やリズムに合わせて、体を動かすことを楽しむ。

環境の 構成

- ・ 着替えや身の回りの片付けの手順が分かりやすいように、入れ物を用意したり、表示をしたりする。
- ・ 水の心地よさを味わい、安全に水遊びができるような用具の準備や整備・点検をする。
- ・ 自分なりの遊びを楽しみながらも、友達が遊んでいる様子が分かるような空間や場づくりをする。

保育者の 関わり

- ・ 一人ひとりの発達を丁寧にとらえ、必要に応じて手助けしたり励ましたりして、自分でしようとする気持ちが育つようにする。
- ・ 遊びへの興味が広がるように、保育者も一緒に遊びを楽しみながら遊びに誘ったり、他の子どもとの遊びの仲立ちをしたりする。

食育

- ・ 自分で食べることに、楽しみや自信を感じられるような言葉がけをする。
- ・ プランターの置き場を工夫したり、畑を作ったりするなどして、身近な植物や野菜の育ち、収穫を楽しめるようにする。

家庭との 連携

- ・ 園生活の中で、身の回りのことを自分でしている姿を伝え、子どもの成長を喜び合いながら、家庭でも時間的な余裕をもって取り組むように伝える。
- ・ 食事、睡眠、休息などの生活リズムの安定について、その大切さを伝えていく。
- ・ 水遊びが十分楽しめるよう、家庭と連絡をとり、体調の変化に気を配る。

3歳児3期（10月～12月）



3
歳
児

子どもの姿

- ・滑り台を滑るスピードをコントロールするなど、全身を使う運動が活発にできるようになる。
- ・身の回りのことを自分でしようとする。
- ・自分の好きな遊びを繰り返す。
- ・一緒に遊びたい友達ができて、自分から関わっていく。

ねらい

- ・保育者や友達と一緒に生活することを喜び、一緒に遊んだり会話をしたりすることを楽しむ。
- ・園での過ごし方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする。
- ・経験したこと、感じたこと、想像したことなどを、のびのびと表現する。

経験させたい 内容

生活する力

人と
かわる力

自ら学ぶ力

- ・保育者や友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。
- ・着替えや片付けなど、身の回りのことを自分でしようとする。
- ・行事や生活の中で、異年齢児とふれ合うことを楽しむ。
- ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。
- ・保育者や友達と一緒に、簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- ・秋の自然に触れ、友達と見立て遊びやごっこ遊びを楽しむ。
- ・絵本や紙芝居を友達と見たり聞いたりして楽しむ。
- ・リズムの変化に合わせて体を動かし、動物や乗り物の動きを体で表現して楽しむ。

環境の 構成

- ・運動会などをきっかけに、4、5歳児の活動を見たり、真似をしたりするので、繰り返し遊べるように遊具や用具を身近に用意する。
- ・身近な自然に興味をもてるように、園外に出かけたり、動植物を見たり触れたりする機会をもつ。
- ・友達と同じようなことをして、一緒にいることが楽しめるように、身近な素材や用具を用意する。

保育者の 関わり

- ・自分で最後までやり遂げようとする気持ちが出てくるので、保育者は見守り子どもの気持ちを受け止める。状況に応じて援助をし、できた満足感を味わえるようにする。
- ・保育者や友達と遊ぶ楽しさを味わって、もっとやりたいという気持ちをもてるようにする。
- ・トラブルが起きたときには、それぞれの思いを受け止めて保育者が代弁しながら、相手の気持ちに気付けるようにする。

食育

- ・苦手な食べ物が食べられた時には、自信につながるような声かけをする。
- ・食事が終わるまで席を立たないなど、簡単なマナーを知らせていく。

家庭との 連携

- ・運動会などの取り組みは、個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。
- ・様々な食べ物を進んで食べ、慣れないものや嫌いなものにも挑戦していくことが大切だと伝えていく。



3歳児4期（1月～3月）

子どもの姿

- ・ブランコに乗ってこぐなど、全身を使う運動が活発にできるようになる。
- ・自分で身の回りのことができるようになったことを喜び、進んでしようとする。
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさが分かるようになってくる。
- ・一日の生活に必要な衣服をたたむ、ハンカチを使って拭くなど身の回りのことがひと通り自分でできるようになる。

ねらい

- ・友達と遊んだり話したりすることを喜び、一緒に活動しようとする。
- ・遊びの中で作ったり動いたりして、表現することを楽しむ。
- ・見たり、感じたりしたことをのびのびと伝えようとする。
- ・進級することに憧れをもつ。

経験させたい 内容

生活する力

人と
かかわる力

自ら学ぶ力

- ・保育者や友達と集団遊びを楽しみ、体を動かして遊ぶ。
- ・衣服の着脱や始末、手洗い、うがいなど、身の回りのことを自分でしようとする。
- ・友達との関わりの中で、きまりやルールを守ろうとする。
- ・自分の気持ちを自分なりの言葉で表現する。
- ・冬の自然を見たり、ふれたり、体で感じたりする。
- ・絵本や紙芝居などを見たり聞いたりして、言葉の面白さに気付く。
- ・身近な材料を使って、遊びに使うものを描いたり作ったりすることを楽しむ。
- ・音楽やリズムに合わせて、友達と一緒に楽器遊びを楽しんだり、自分なりのリズムを音や体で表現したりする。

環境の 構 成

- ・遊びが継続、発展できるような材料や、遊びたい友達と一緒にいられる場などを用意し、友達や保育者と十分ふれ合って遊べるようにする。
- ・簡単なルールや繰り返しのある遊びを友達と一緒に楽しめるよう、遊具や用具を用意する。
- ・冬の自然に興味をもって関わったり遊びに取り入れたりできるような環境の構成を工夫する。

保育者の 関わり

- ・自分のことは自分でする姿に共感し、認めたり褒めたりすることで自信をもてるようにし、大きくなった喜びを感じ取れるようにする。
- ・友達と一緒に遊ぶ姿を見守ったり楽しさを共感したりし、さらにつながりが感じられるようにする。
- ・一人ひとりの動きを受け止めながら、保育者もアイデアやヒントを出し、一層遊びが楽しくなるようにする。

食 育

- ・自分で準備や片付けができる姿を認め、自信につなげていく。
- ・異年齢児と食事をする機会をつくり、会食の楽しさを感じられるようにする。

家庭との 連 携

- ・自己主張や自立心が強くなるが、まだ甘えたい気持ちもあるので、温かく受け止めるように伝える。
- ・進級に向けて子どもの成長を振り返ったり喜んだりする機会をつくる。

実践事例 ダンゴムシみーつけた

保育の時期 3歳児1期

経験させたい内容 春の自然に興味をもち、見たりふれたりして遊ぶ。

子どもの様子

- みんなで園庭の草むらでダンゴムシを探していると、A児が「ダンゴムシいたよ。」と、保育者に知らせる。居合わせた幼児たちが近寄ってきて、「おっきいね。お父さんかな?」「あっ、ここにもいる。これは小さいから赤ちゃんかな?」とダンゴムシに興味をもつ。
- B児が「ダンゴムシ、あっちにもいたよ。」と知らせにくる。教えてくれた場所に移動し、ダンゴムシを探し始める。
- ダンゴムシを見付けて触る。A児「これ、まるまらないよ。」保育者「ほんとだ、触っても丸まらないね。」と、手の平に乗せ周りの幼児たちに見せる。B児「ダンゴムシじゃないのかな?」と不思議がる。
- 年長児が図鑑を持って虫探しをしていたので図鑑を見せてもらう。保育者「この虫かな?ワラジムシと言うんだね。」と、ダンゴムシと似ているワラジムシがいることを知らせる。
- A児「触るとまるまるのがダンゴムシなんだね。」と、ダンゴムシを捕まえては、「ダンゴムシみーつけた。」と言って容器に入れている。



保育のポイント

- 春のおだやかな気候に誘われ、戸外遊びの楽しさが増してくる。園庭のタンポポを摘んだり、虫を見付けたりしている。その姿を捉え、春の自然に興味をもてるよう、保育者も一緒に見たりふれたりして、楽しさを共感することが大切である。
- 親しみをもった友達と同じ場で過ごすことで安心して遊べるように環境を整えて、自然とふれ合う中で一緒に楽しんだり夢中になれることを見付けられたりするように配慮することが必要である。
- 発する言葉や声、表情などから興味や関心といった子どもの心の動きを読み取り、興味をもった子ども同士がやりとりを始めるよう、人との関わりや活動の広がり、興味の広がりを見逃さないことが大切である。
- 身近な動植物に親しみをもって接し、遊んだり、世話をしたりすることを通して、小さな生き物にも生命があることに気付かせ、大切にしようとする気持ちを育てていく。

4歳児1期（4月～6月）



子どもの姿	・進級や入園に喜びや期待をもつ子がいたり、保護者と離れることに不安になるなど、新しい環境に戸惑いをもつ子もいたりする。 ・環境に慣れ、安心して過ごす中で、自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ・園生活の大まかな流れや過ごし方が分かり、保育者の言葉かけにより、身の回りのことをしようとする。
ねらい	・新しいクラスに慣れ、自分でできることは自分でしようとする。 ・自分の好きな遊びを見つけ、安心して遊びを十分に楽しむ。 ・身近な自然にふれて、見たり遊んだりすることを楽しむ。 ・遊びの中で、周りの友達とふれ合う嬉しさを感じる。
経験させたい内容 生活する力 人とかわる力 自ら学ぶ力	・保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶ。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。 ・生活の場でのきまりがあることを知る。 ・保育者や友達との会話を楽しみ、困っていることや、してほしいことなどを、保育者に伝えようとする。 ・あいさつや返事など、生活に必要な言葉を使おうとする。 ・春の自然にふれ、身近な花や虫に親しむ。 ・絵本や紙芝居などを見たり、聞いたりして、ストーリーや絵や言葉の面白さに気が付く。 ・いろいろな材料や用具を使って、自分なりに工夫して描いたり、作ったりすることを楽しむ。
環境の構成	・身の回りのことが進んでできるよう、場所を整えたり、分かりやすく表示したりする。 ・自分で好きな遊びを見つけて十分楽しめるように、すぐに教具を取り出せるような環境にする。 ・保育者や友達と一緒に、身近にいる動植物の様子に興味をもってみる場や機会をつくる。 ・梅雨時も、十分に体を動かすことができるよう、環境を整える。
保育者の関わり	・一人ひとりが安心して園生活を送れるように、経験の違いによる遊び方や思いを十分に受け止め、保育者との信頼関係を築いていく。 ・生活の仕方やきまりについて、保護者が手を貸したり、モデルを示したりしながら、できるようになったことを認めたり、励ましたりして、自分でしようとする気持ちを育てていく。 ・保育者自身が身近な自然に興味をもって関わり、子どもたちが親しみをもてるようにしていく。
食育	・食事の準備の仕方が分かり、何でも食べようとする気持ちをもつ。 ・箸の使い方、こぼしたものの片付けなどを伝えながら、楽しく食事ができるようにする。
家庭との連携	・個人面談や保護者会、おたよりなどで、園の方針やクラス運営方針などについて伝え、園と家庭が同じ思いで、子どもたちに関わっていけるようにする。 ・日中、元気に過ごせるよう子どもの生活を優先させ、「早寝早起き朝ごはん」のリズムをつくるよう、家庭に啓発する。 ・園や家庭での子どもの様子を伝え合い、保護者が安心できるよう気持ちを受け止めながら、信頼関係を築いていく。



4歳児2期（7月～9月）

子どもの姿

- ・様々な活動への興味が広がり、体を十分に動かすようになる。
- ・友達との関わりを求め、相手と同じ遊びを楽しむようになる。
- ・自然物を取り入れて遊ぶことを楽しんだり、自然物に関わって遊ぶ面白さを感じたりする。

ねらい

- ・保育者や友達と一緒に戸外で体を思い切り動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ・友達とルールを守って遊ぶ楽しさに気付き、仲間意識をもつ。
- ・いろいろな夏の遊びや自然にふれ、それらを使って遊ぶ。

経験させたい 内容

生活する力

人と
かかわる力

自ら学ぶ力

- ・いろいろな遊びの中で思い切り体を動かす。
- ・遊びや活動を最後までやり通す。
- ・全身を使って水遊びを楽しみ、水に親しむ。
- ・身の回りのことなど、自分でできることは自分でする。
- ・身近な動植物に親しみ、いたわったり大切にしたりする。
- ・気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・落ち着いて保育者や友達の話を聞き、自分の思いを言葉で伝えようとする。
- ・クラス全体の活動の中で、簡単な言葉のやりとりを保育者や友達と一緒に楽しむ。
- ・夏の自然に親しみ、感動したり、自然物を使って遊んだりすることを楽しむ。
- ・保育者や友達と一緒に絵本や童話を楽しむ。
- ・身近な素材で作った物を使って遊ぶ楽しさを味わう。
- ・音楽にふれ、歌、楽器、リズムに合わせて体を動かす。

環境の 構成

- ・水遊びなどは、子どもが興味をもち、進んで遊びに取り組むことができるようにする。
- ・材料や道具を身近に用意しておき、子どもの制作意欲につなげる。
- ・気の合う友達との遊びを楽しめるよう、遊具や場を確保する。
- ・植物を使って色水を作るなど、季節の動植物との関わりを遊びや生活に生かす。

保育者の 関わり

- ・子ども同士の間人間関係を把握し、友達との関わりやふれ合いを楽しめるようにする。
- ・遊びの中でいろいろなことに気付き、試行している姿を受け止め、認めたり共感したりして、満足感を味わえるようにする。
- ・水遊びは個人差を把握し、一人ひとりが無理なく水に親しめるようにしていく。また、着替えに慣れていない子どもには、温かく励まし、安心して取り組めるように援助していく。

食育

- ・野菜の栽培や水やりを通して、成長の様子や変化を楽しみながら、気付いたことなどを伝え合う場面を設ける。
- ・育てた野菜の皮をむいたり、食べたりすることを通して、食材に興味をもてるようにする。

家庭との 連携

- ・保護者が安心できるよう4月からの成長の様子を知らせ、家庭とともに成長を見守っていけるようにする。
- ・夏の遊びを十分に楽しめるよう、体調管理と持ち物の用意などの協力をお願いする。
- ・規則正しい生活を継続して行えるよう、協力してもらう。

4歳児3期（10月～12月）



4歳児

子どもの姿	・思いを伝え合いながら友達と関わり、遊びを持続させるようになる。 ・友達への関心が高まり、相手を理解しようとする気持ちが芽生えるようになる。 ・興味や思い付きから広がる遊びを楽しみ、自分なりにやろうとする。 ・危険な場所や遊び方に気付き、安全な行動を意識できるようになる。 ・クラスの仲間と活動する面白さを感じるようになる。
ねらい	・自分の思いを表現したり、相手の思いに気付いたりしながら友達と関わる。 ・自然の変化に気付き、身近な自然と十分ふれあい、興味をもって遊ぶ。 ・友達と力を合わせ、目標に向かって最後までやり通し、達成感を味わう。 ・遊びや生活を通してきまりやルールの大切さに気付く。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・いろいろな遊具や用具を使い、戸外でみんなと一緒に思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・危険な場所や遊び方に気を付けて行動する。 ・簡単なきまりやルールなどの集団行動の約束を守って遊ぶ楽しさを味わう。 ・遊具を大切にし、みんなで使ったり片付けたりする。 ・自分の思ったことを言葉で表し、相手に聞いてもらう喜びを味わう。 ・友達と遊ぶ中で、相手の気持ちに気付く。 ・秋の自然に親しみ、感動したり、自然物を使って遊んだりすることを楽しむ。 ・進んで絵本や童話に親しみ、想像する楽しさを味わう。 ・様々な素材を使って、作ったり飾ったりすることを楽しむ。
環境の構成	・十分に体を動かして遊ぶことができるように、遊具や用具を用意する。 ・簡単なルールのある遊びを用意したり、必要に応じてルールを確認し合う場を設けたりする。 ・自分なりの表現ができるように様々な素材を用意し、取り組む時間を十分に確保する。 ・自然物に関心をもてるような機会をつくったり、自然物を子どもの目に付く場所に置いたりする。
保育者の関わり	・いろいろな活動に自分なりに取り組もうとする姿や、一人ひとりの頑張りを認めていく。 ・一人ひとりの思いを十分に受け止めながら、思いを引き出したり、相手への伝え方を具体的に示したりしていく。 ・友達と一緒に遊ぶ中で、相手の思いに共感したり自分の想いを伝えたりできるよう導く。
食育	・いろいろな食物をとることや食事の前に清潔にすることが、健康にとって大切であることを伝えていく。 ・様々な食材を順序よく食べ、十分に咀嚼できるようにする。
家庭との連携	・子どもの取組や、友達との関わりの中で成長した姿を伝え、ともに成長を喜び合い、今後の親子の励みとなるようにしていく。 ・家庭内での役割を決め、責任をもって行えるよう協力してもらう。 ・家庭でもボタンの留め外しや衣服のたたみ方などを確認し、自分の力でできるように協力してもらう。



4歳児4期（1月～3月）

子どもの姿	・自分の思ったことや考えたことを言葉で伝えたり表したりしながら遊べるようになる。 ・友達と気持ちを受け止め合って遊ぶことを楽しむようになる。 ・自分なりに試したり工夫したりして遊び、いろいろな活動に興味をもって取り組むようになる。
ねらい	・自分なりの目的に向かって、自分の力を出して遊ぶ。 ・自分の感情を調整しながら集団で活動することを楽しむ。 ・遊びや活動をみんなで考えたり工夫したりして最後までやり遂げる。 ・もうすぐ年長組になることに期待をもち、自信をもって行動する。
経験させたい 内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・寒さに負けず、戸外で全身を思いきり動かして遊び、ルールのある遊びを楽しむ。 ・手洗い、うがいなど、生活習慣の再確認をする。 ・保育者や友達と一緒にいろいろな活動に取り組む中で、仲間としてのつながりを感じる。 ・善悪の判断ができ、人に迷惑をかけずに遊んだり親切にしたりしようとする。 ・冬の自然に興味や関心をもち、霜柱や氷などに気付いて感動したり疑問に思ったりする。 ・遊びに必要なものを描いたり作ったりし、それを使って遊ぶ。 ・絵本や物語の世界に親しみ、なりきったり、自分なりのイメージを動きや言葉で表現したりする。 ・自分の気持ちを調整しながら、集団で活動することを楽しむ。
環境の構成	・目的意識がもてるような活動をクラス全体で行い、友達を意識する機会をつくる。 ・表現遊びの楽しさを感じることができるよう、絵本、紙芝居、パネルシアターなどにふれる機会をつくる。 ・進級に期待をもつことができるよう、異年齢で関わる機会をつくる。
保育者の関わり	・工夫して取り組んでいる姿を認め、必要に応じて援助し、満足感や達成感をもつことができるようにする。 ・冬の身近な自然にふれながら、発見や疑問などに共感する。 ・年長児にしてもらったことや、教えてもらったこと、一緒に遊んだことを話し合い、年長児の卒園・修了を祝う気持ちをもてるようにする。
食育	・あいさつや姿勢など、食事に必要なマナーの大切さが分かり、自ら進んで取り組めるように働きかける。 ・自分たちで野菜の苗植えをしたり、簡単な料理などをしたりする機会をつくることにより、収穫を楽しみに待ったり、食べる楽しさや感謝の気持ちをもったりするようにする。 ・箸を正しく使って食事ができるようにする。
家庭との連携	・1年間の子どもの成長を保護者とともに喜び合い、進級にあたっての心構えをしていく。 ・正月などの季節行事や、社会事象などに対する関心がもてるように、家庭でも話題にしたり経験したりすることの大切さを伝えていく。

保育の時期 4歳児1期

経験させたい内容 春の自然にふれ、身近な花や虫に親しむ。

子どもの様子

- 4月の後半に朝顔の種まきを行い、種の形や感触などを感じる。
- 朝顔に水をやりながら、朝顔の成長を見守る。
- 朝顔の花の色を予想しながら開花を待ち望んでいる。
- 朝顔のつぼみを見つけ、「赤ちゃんがいる!」と喜び、朝顔に優しい気持ちで声をかけている。
- 朝顔のツルを見ながら、「どこまで伸びていくのかな?」と予想し、「毎日伸びているね。」とツルの成長も見守り、楽しみにしている。
- 朝顔の葉の形を「ワンちゃんのベロの形みたいだね。」と例え、観察をしている。
- 葉を触り、「ふさふさしている。」や「ザクザクしている。」と例え、葉の感触にも注目し、楽しんでいる。
- 天候が雨の日は、「沢山朝顔に栄養が届くね。」と言い、雨の日も朝顔のことを気にかけている。
- 登園の際に、「もうすぐお花が咲きそうだね。」などと保護者と会話をしながら、共に観察をする姿が見られる。



保育のポイント

- 朝顔の種や栄養のある土を紹介し、朝顔が育つために必要なことは何か子どもたちが学べるようにする。
- 毎日の中で小さな成長も発見できるように観察する時間をとる。
- 水まきをする際は周り子どもにかからないよう気を付ける声かけが必要がある。
- 朝顔は植物であり、生きているため葉を引っ張らない、花を摘まないと約束をし、大切に見守ることができるようにする。

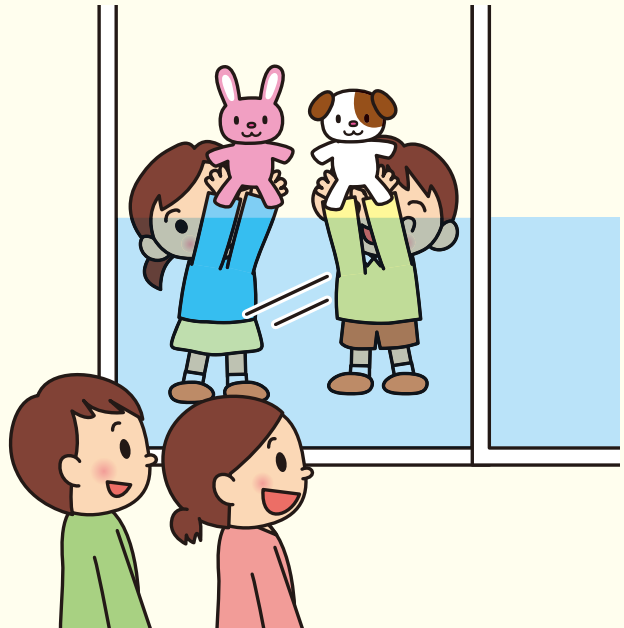
「人形劇ごっこ」になったよ！

保育の時期 4歳児1期

経験させたい内容 遊びの中で、周りの友達とふれ合う楽しさを感じる。

子どもの様子

- 数名の子どもが、ぬいぐるみで人形遊びをしている。
- 近くにいるほかの子どもが、下半分がすりガラスになっている窓の下半分に体を隠し、手を伸ばしてジャンケンをして遊んでいる。
- お互いの遊びに気付き、関わりたい気持ちが生まれ、興味をもって見ている。
- ジャンケンをしていた窓から腕を伸ばして人形遊びの人形を動かし、みんなで人形劇ごっこを始めた。



保育のポイント

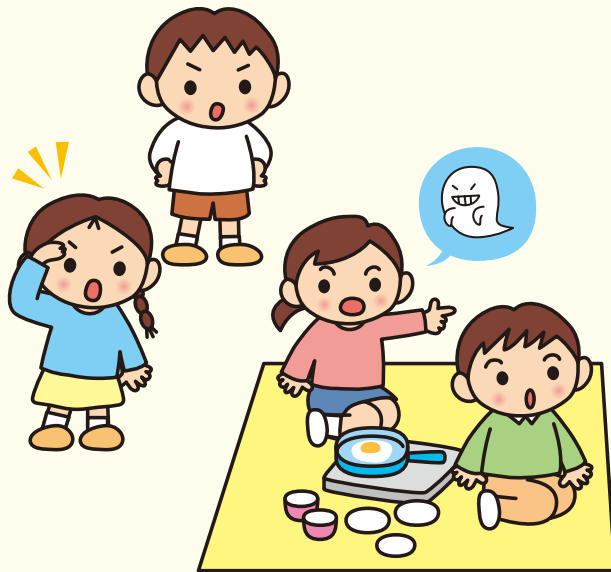
- 入園・進級後の新しい環境の中、まだ不安や緊張を抱えながら、一人遊びをする子どもも多い。そのため、安心して過ごせるよう、ブロック・積木・ままごとなどの遊びやすい玩具などを置き、楽しく遊べるよう環境を整える必要がある。
- まずは、幼児一人ひとりが好きな遊びを見つけてその子らしく遊べるよう見守る。
- さらに、友達の遊びにも興味をもてるように保育者も働きかける。友達の真似をしたり、学んだりしながら自分の中に取り込み、自発的に行動できるよう援助していくことが大切である。

保育の時期 4歳児4期

経験させたい内容 自分の気持ちを調整しながら、集団で活動することを楽しむ。

子どもの様子

- 数名の子どもが戦隊ヒーローごっこを始めようとしているが、うまく役割が分担できず、赤色のヒーローが二人になってしまう。「誰か違う色に変わってよ！」と言うが、譲らない。「赤が二人いたら強くなるから、二人とも赤でいいよね。」と、赤色の二人が言い、みんなが納得して仲良く園内のパトロールに出かけた。
- パトロール中に見えない敵と戦ったり、近くで別の遊びをしている友達に話しかけたりしている。
- ままごとで遊んでいる子どもとやりとりを始める。「ここに悪者はいませんか。」「あっちの方に怖いお化けが。きゃー！」「分かりました。すぐにやっつけてきます。」
- 「どうもありがとう。」と、会話を楽しみ、お礼にままごとのご飯をもらって食べる。
- 「パトロール→会話→見えない敵と戦う→会話」の流れをずっと続けて遊んでいる。



保育のポイント

- クラスの友達との関わりも安定してきたこの時期は、友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わうことができるよう、遊びの場として小さなマットや敷物などを用意したり、遊びのコーナーを作ったりしておく、遊びが広がっていく。
- 体を動かすことが好きな子どもたちが安全に遊ぶためには、日常の遊びの中で「まわりに友達がいないか確かめ、ぶつからないように遊ぶ」「戦いごっこをする時は、実際には剣を当てない」など、約束事を決め、それを守る経験をすることが大切である。

5歳児1期（4月～6月）



子どもの姿	・年長組になった喜びや期待をもちながら、新しい環境に自分から関わる。 ・新しい生活のルールを知り、守ろうとする。 ・気の合う友達や保育者と、好きな遊びを一緒に楽しむ。 ・異年齢の子どもに対して、優しさや思いやりをもって、手助けしてあげようという気持ちをもつようになる。
ねらい	・年長組になった喜びや自覚をもち、年長児としての生活の仕方が分かり、進んで行く。 ・新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。 ・遊びや生活の中で、自分の気持ちや考えが相手に伝わる喜びを感じる。 ・遊びの中で、友達や保育者との関わりを楽しみ、クラスのつながりを感じる。 ・春の自然にふれ、興味・関心をもって遊びに取り入れる。
経験させたい内容 生活する力 人と かかわる力 自ら学ぶ力	・戸外で友達と一緒に体を動かして十分に遊ぶ。 ・衣服の着脱や片付けを自分でする。 ・年下の子どもの世話など自分にできることをし、役に立つ喜びを感じる。 ・友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり協力したりする。 ・身近な動植物に親しみ、ふれたり世話をしたりする。 ・身近な自然の変化に興味や関心をもち、自然物を遊びに取り入れる。 ・友達と一緒に歌を歌ったり、曲に合わせて踊ったりすることを楽しむ。 ・いろいろな材料を使って、自分のイメージに合わせて作ろうとする。 ・指先を使う遊びを積極的に取り入れる。 ・言葉で自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。
環境の構成	・生活に必要な道具などの場所を子どもが分かりやすいようにし、子どもと一緒に生活の場をつくっていく。 ・年長組が遊べる遊具や場所を用意し、他のクラスと連携を取りながら、年長児たちがしたい遊びが十分にできる時間と場所を確保する。 ・友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるよう、クラス全体で活動する時間や場を設ける。 ・身近な自然に関心をもち、様子を見たりふれたりできるように、近くの公園で自然にふれる機会をもったり、図鑑や虫めがねを用意したりなどする。
保育者の関わり	・進級した喜びに共感するとともに、緊張や戸惑いの気持ちも十分受け止め、自信や安心感をもって過ごせるようにする。 ・進級して張り切っている気持ちを認め、様々な活動に取り組む中で、自分たちで進めているという思いをもてるようにする。 ・友達と一緒に遊んだり活動したりする時間をつくるなど、子どもたち一人ひとりが、自分とクラスとのつながりを感じて安心して過ごせるようにする。 ・ルールのある遊びでは、保育者も一緒に遊ぶ中で、進め方やルールを守って遊ぶ大切さを気付かせながら、自分たちで遊びが進められるようにしていく。
食育	・挨拶や姿勢など、気持ち良く食事をするためのマナーに、自分で気付いたり、正そうとしたりしている姿を認めながら、食事の楽しさが味わえるようにする。 ・子どもたちが自分で野菜を栽培する経験ができるよう、種、土、肥料などを用意し、植えた野菜に水やりをしたり、成長の様子を観察し、それを図鑑で調べたりできるよう環境を整える。
家庭との連携	・今年度のねらいや方針を保護者会やおたよりなどで家庭に伝え、理解を求め、園と家庭が同じ気持ちで子どもに関わってもらえるようにする。 ・子どもの様子を送迎時などに伝え合い、保護者との信頼関係を築いていく。



5歳児2期（7月～9月）

子どもの姿

- ・ 保育者の指示を理解して動けるようになる。
- ・ 遊びの中で、自分なりに試したり、工夫したりするなど、自分から進んでやってみようとする意欲が見られる。
- ・ 友達と積極的に関わりたいという気持ちが大きくなってくが、自分の気持ちを上手に伝えられず、衝突することがある。

ねらい

- ・ 自分なりの目的をもち、試したり考えたりしながら遊び、自分の力を十分に発揮する満足感を味わう。
- ・ 思いや考えを伝え合いながら、友達と一緒に遊びや生活を進めようとする。
- ・ 役割をもつ喜びを味わい、その役割をやり遂げようとする。

経験させたい 内容

生活する力

人と
かかわる力

自ら学ぶ力

- ・ さまざまな運動に取り組む中で自分から挑戦し、十分に体を動かして遊ぶ。
- ・ 汗を拭くことや衣服の調整、水分補給を自分で気付いて行う。
- ・ 友達の話を聞いたり思いを受け止めたりする。
- ・ 自分の感じたことや思ったこと、考えたことを言葉で伝える。
- ・ 相手の考えや気持ちが自分と違う場合があることに気づき、自分なりに考える。
- ・ 遊びがより楽しくなるように、考えたり工夫したりする。
- ・ 身近な動植物を観察したり世話をしたりする中で、その成長や生態に興味、関心をもつ。
- ・ 水遊び、プール遊びなど、季節ならではの遊びを楽しむ。
- ・ 物語や昔話など、様々な絵本に興味をもって親しむ。

環境の 構 成

- ・ 試したり工夫したりして活動に取り組めるように、様々な用具や材料を用意する。
- ・ グループで取り組む活動を取り入れ、思いを伝え合う機会をもつ。
- ・ 身近な自然とふれ合う機会を多くし、興味を深め、成長を見守る機会をつくる。
- ・ 水遊びやプールなど、夏ならではの遊びが十分楽しめるように、準備や環境設定を行う。
- ・ 子どもにも見やすい時計やカレンダーなどを置き、数への興味をもたせたり、時間の感覚を育てたりする。

保育者の 関わり

- ・ 自分なりに動いたり挑戦したりしている姿を認め、意欲につながるようにする。
- ・ 子どもが、意見のぶつかり合いを自分たちで乗り越えられるように励ましたり、見守ったり、解決の仕方を示したりしながら、子どもの気持ちを支えていく。
- ・ 様々なことに挑戦する中で達成感や満足感を味わえるように、できた喜びや、頑張っている気持ちを受け止め、共感していく。
- ・ 水を使う遊びを行うときには、子どもの状態を把握して、特に衛生や安全に配慮する。

食 育

- ・ 自分が育てた野菜を使った調理を経験することで食への興味を引き出し、苦手な食材を食べられるきっかけにする。
- ・ 野菜を収穫するまでには様々な過程があることを知ること、収穫できる喜びを感じられるようにする。
- ・ 食べ物への感謝の気持ちをもち、食事を残さず食べようとする気持ちを育てていく。

家庭との 連 携

- ・ 子ども同士の間で起こった出来事については丁寧に伝え、友達との関わりを通して、子どもが獲得している力について理解し合い、見守っていきけるようにする。
- ・ 夏の遊びが十分楽しめるよう、体調の管理と持ち物の用意などの協力をお願いする。
- ・ 園での当番活動の様子を伝え、家庭でも手伝いに取り組むなど、家族の一員として役割をもって生活できるようにしてもらう。

5歳児3期・4期（10月～3月）



- ・この時期は、就学前の幼児がスムーズに小学校の生活や学習に適應できるようにするとともに、幼児期の教育を小学校教育につなげることが重要です。
- ・「草加市幼保小中一貫教育プログラム」 11～32ページに幼児期の教育と小学校教育をつなげる「アプローチカリキュラム」作成のポイントをまとめています。



「草加市幼保小中一貫教育プログラム」 16・17ページ
「小学校教育以降の生活や学びとつながりがある活動の具体例」

5 歲兒

[illegible]

実践事例 おばけやしきごっこ

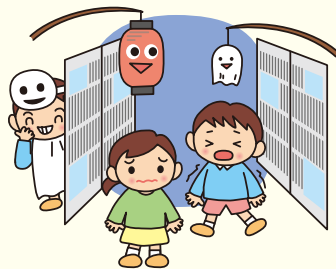
保育の時期 5歳児1期

経験させたい内容 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり協力したりする。

子どもの様子

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

- 「おばけなんてないさ」の曲を歌ったことをきっかけに、A児が「お化けをつくって驚かせたい。」と言い、お化けを作った。
- A児が、作ったお化けでみんなを怖がらせて楽しんでいるのを見て、他の子どもたちもお化けをつくり出した。
- それを見ていたB児が「お化け屋敷にしたら。」と言ったのをきっかけに、お化け屋敷をつくり始めた。
- 「迷路みたいな道にしようよ。」との提案で、新聞紙を吊るして道を作ったり、廃材を利用して立体のお化けを作ったりする子どもも出てきた。
- 完成すると、自分たちが楽しむだけではなく、「小さい子のお友だちも呼びたい。」と考え、看板を作ったり、声をかけてまわったりする子どもたちが出てきた。
- 異年齢のクラスを招待し、お化け屋敷遊びを行った。何度か繰り返すうちに、作ったもので驚かすだけでなく、自分自身がお化けになって直接驚かすなど、遊び方を工夫して楽しむようになった。



豊かな感性と表現

様々な材料を用意することで、子どもたちが思い思いの表現でお化けを作っている姿が見られます。

協同性

同じクラスの子どもたちと協力してお化け屋敷を作る姿や、年下の子どもたちを招待して、一緒に楽しむ姿が見られます。

保育のポイント

- 幼児は、それぞれの遊びの中で、自分で描いたり作ったり自己表現をしようとする気持ちをふくらませていく。その思いをとらえ、必要な素材や用具を用意したり援助したりしながら、表現意欲を満足させ、表現する喜びを十分に味わえるようにすることが必要である。
- 遊びが展開し、翌日まで遊びが続くと予定されるときは、クラスで話し合い、遊びの場を残しておけるように配慮する。
- 子どもが遊びを通して感じたりイメージしたりしたことを、保育者や他の子どもと自分の言葉で伝え合い、感情や意志を共感する喜びを味わえるようにすることが必要である。
- 日ごろから幼児の遊びに必要な廃材(牛乳パック、お菓子の箱など)を提供していただくように手紙などで保護者に伝える。活動の様子も伝えていく。

ミニカーの道を作ろう

保育の時期

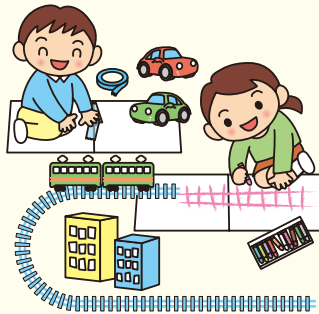
5歳児1期

経験させたい内容

友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりする。

子どもの様子

- 3人の子どもたちが、ミニカーを使って遊びだす。
- つなげていたレールが、足りなくなると「そうだ！ 道が足りないから紙で道を作ろう。」と言い、紙をつなげる人、紙に線を描く人…と役割を決め、それぞれ作り始める。
- 道を作ると、「駐車場も必要だね。」「こっちにつなげようか。」「道はどっちに曲げようかな。」と話し合っていた。
- 次第にできあがってくると、車を走らせ、駐車場に車を並べて遊びだす。
- 遊んでいるうちに道だけでは物足りなくなり、「ビルも作ろう。」と言いだす。保育者が空き箱を置いておくと、「そうだ！ これもつなげよう。」と早速、手に取り、つなげだした。
- 「これは、僕が生まれた病院。」「これは、いつも買いに行くおいしいパン屋さん。」など、だんだんと街の様子を再現するようになる。
- 片付けの時間になると、「また明日も遊ぼうね。」と声をかけ合い、作った道を大切にしまっていた。



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

協同性

役割分担をして、協力してミニカーの道を作っている姿が見られます。

社会生活との関わり

自分たちが生活する街の情報を遊びに取り入れている姿が見られます。

保育のポイント

- 生活体験や発達に応じて、子どもが自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮できるように、遊具や用具、材料を整えたり、他の子どもの表現活動にふれられるよう配慮したりして、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるようにする。
- 保育者は、子どもたちの発想を大事にし、自分たちで楽しみながら遊べるように見守ったり、遊びに入ったりして、子どもの思いに共感することが必要である。
- 保護者にも制作過程の様子を伝え、完成の喜びを一緒に味わえるようにする。

ドーナッツ作り

保育の時期

5歳児1期

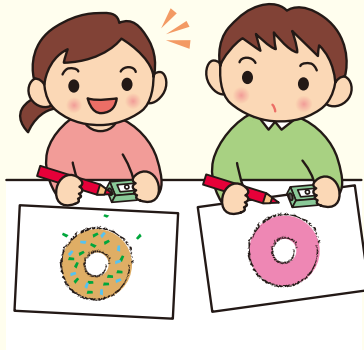
経験させたい内容

いろいろな材料を使って、自分のイメージに合わせて作ろうとする。

子どもの様子

幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿との関連

- 5月に数人の子どもたちが、紙に鉛筆でドーナッツの形を描き、色鉛筆を削って作った粉をチョコレートに見立てて上に貼り付ける、というドーナッツ作りをしていた。
- A児は、5月の時点では、遠くから見ていだけで参加する様子はなかった。
- 8月になって、A児は、他の子どもたちが遊んでいたのを思い出すように一つ一つじっくり確かめるように一人で遊び始めた。
- その様子を見ていたB児が「こうやって削るんだよ！」
- 「テープで貼るといいよ！」と声をかける。
- A児は、返事をしないが、教えてくれたB児の真似をして真剣に作る。
- でき上がるとA児は、「できた！」と自分に言い聞かせるように声を出し、保育者に見せにきた。
- 保育者が「美味しそうなドーナッツができたね。」と声をかけると、再度、ドーナッツを作り、満足すると嬉しそうにカバンにしっかりとしまっていた。



協同性

B児が声をかけることによって、お互いに「一緒に作りたい」という思いをもち、工夫しながら取り組んでいる姿が見られます。

豊かな感性と表現

友だちのアドバイスを聞きながら、自分が納得するまで、ドーナッツ作りに取り組んでいます。様々な用具や材料を準備することで、子どもたちの表現は、豊かに発展していきます。

保育のポイント

- 子どもの遊ぶ姿や発想を大切にし、興味をもった観察や制作が十分にできて、必要な体験ができるように、用具や材料を準備し、適切な環境にすることが重要である。
- 身近にある廃材や用具をいつでも使えるように、準備する。
- 子どもの主体的な活動は、他の子どもとの関わりの中で深まり、豊かになる。集団生活の中で保育者や友達に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにする。
- 子どものそれぞれの発達の段階を理解し、遊びへ興味・関心をもつ様子を見守る。必要に応じて声かけなどを行う事で、遊びへの探求心が膨らむように援助することが必要である。

保育の時期

5歳児2期

経験させたい内容

様々な運動に取り組む中で自分から挑戦し、十分に体を動かして遊ぶ。

子どもの様子

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

- 公園内にロープを使って木の板を登る遊具がある。人気の遊具の一つで、子どもたちは、並んで順番を待っている。
- 今年4月に入園してきたA子は、仲良しの友達と一緒に並んではいるが、何となく不安そうな表情である。
- いよいよA子の番となった。ロープの綱を両手で持ち、何度もずり落ちそうになりながらも板の半分くらいまでなんとか頑張って登ったが、最後は力尽きて落ちてしまった。
- A子は悔しいのか、その場を離れられずにいると、後ろに並んで見ていたB子が、「もう1回やっていいよ。」と声をかけてくれた。
- A子はもう1回ロープをもって登り始めた。後ろに並んでいた子どもたちから、「ロープの上をもって。」「足は板にピタって強くくっ付けて。」と声援を受け、上まで登りきることができた。
- しばらくして、他の子どもたちが違う遊具に移行したのを見て、A子はロープ登りに戻ってきた。遊具の前に立ち、しばらく見てからロープを持って一人で登り始めた。先ほどの体験からコツみたいなものをつかんだようで足と手を使って一気に登ることができた。



健康な心と体

全身を使った遊びを繰り返すことで、健康な体や体力を育んでいる姿が見られます。

自立心

友達の励ましもあり、あきらめずにやり遂げることができました。最後は、一人で挑戦しており、自信がついてきた姿が見られます。

保育のポイント

- 散歩を通して、遊具等で遊びながら、思い切り体を動かしたり、様々なことを体験したりできるように配慮している。
- 幼児が興味をもった活動に、試行錯誤しながら取り組む時間を保証することが大切である。
- 保育者は、幼児の「やり遂げたい」という気持ちを大切にし、幼児が自分なりの満足感や達成感を感じられるように、見守ることが大切である。
- 友達に励まされたりしながら、自分の力でやり遂げた経験は、「難しいことにも取り組んでみよう」という気持ちを育むことにもつながる。

実践事例 セミの隠れ家

保育の時期 5歳児2期

経験させたい内容 身近な動植物を観察したり世話をしたりする中で、その成長や生態に興味、関心をもつ。

子どもの様子

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

- A児が「セミの声が聞こえる!」「セミとりにいこう。」と外へ出る。
- 子どもたちは、「セミは見つけれないけど、抜け殻がたくさんあるよ!」「どこから出てきたんだろう。」と言いながら辺りを探し出す。
- 木の周辺に小さな穴をたくさん見付けて、「ここから出てきたのかな!」と言う。
- 近くにいたB児がその声を聞き、「セミは土の中から出てくるよ!」と教える。すると、「こんな深い穴から出てきたんだね。」と感心しながら、「じゃあ、穴があるところを探せば、いっぱい見付かるかも!」と気づき、B児と一緒に探し始める。
- 「ほんとだ!いっぱいいる!」「どのくらい見付けられるかな?」と探し出した抜け殻を2人で数える。
- 「1,2...22!」とたくさん見付けられたことを喜び合う。



言葉による伝え合い

子どもたちが、お互いの知識や気付いたことを伝え合いながら、遊びを深めている姿が見られます。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

たくさん見付けた抜け殻がどれくらいあるのか知りたいという思いから、自然と10を超える数を使って数えている姿が見られます。

保育のポイント

- 身近な事象や動植物にふれ合い、感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して、生命を大切にす気持ち、公共心、探究心などを養うようにする。
- 夢中で高い場所に乗ったり、手を伸ばしたりするなどの行動を予測し、安全に十分に配慮するとともに、子ども自身が危険な活動に気を付けることができるよう、約束事の確認をする。保育者は子どもと一緒に過ごし、自然の営みを共有できるようにする。
- 遊びの中で、ものを数える等、数にふれる機会をもてるようにする。
- 保護者にも、子どもたち自身が安全に過ごそう(危険な遊びをしない)という自覚をもてるように、夏休みの過ごし方を伝えていく。

5 委員名簿・審議経緯

(1) 平成26年度委員名簿

委員	お小澤理加	私立谷塚おざわ幼稚園副園長	
	お小野真理	私立ルミ幼稚園長	
	かみながみつこ 神長美津子	國學院大學人間開発学部教授	学識経験者
	ごん権だひさこ 権田久子	市立しのは保育園長	
	さかきやまけいこ 榊山敬子	市立きたうら保育園長	
	しまだひろゆき 嶋田弘之	市立高砂小学校教頭	副座長
	たかおかじゅんこ 高岡純子	ベネッセ教育総合研究所次世代育成研究室長	知識経験者
	たかはしさとこ 高橋佐智子	市立しんえい保育園長	
	なかむらとしおみ 中村俊臣	市立両新田小学校長	座長
	ふるかわふみこ 古川美美子	市立谷塚小学校教諭	
	よしだえいこ 吉田栄子	私立草加みどり幼稚園長	
事務局	草加市教育委員会子ども教育連携推進室		
オブザーバー	草加市健康福祉部		
	草加市子ども未来部		

※平成27年2月現在、50音順、敬称略

(2) 平成27年度委員名簿

委員	うだがわえみこ 宇田川江美子	市立稲荷小学校教諭	
	お小澤理加	私立谷塚おざわ幼稚園副園長	
	お小野真理	私立ルミ幼稚園長	
	かみながみつこ 神長美津子	國學院大學人間開発学部教授	学識経験者
	ごん権だひさこ 権田久子	市立しのは保育園長	
	さかきやまけいこ 榊山敬子	市立きたうら保育園長	
	たかおかじゅんこ 高岡純子	ベネッセ教育総合研究所次世代育成研究室長	知識経験者
	たかはしさとこ 高橋佐智子	市立あずま保育園長	
	なかむらとしおみ 中村俊臣	市立両新田小学校長	座長
	よしだえいこ 吉田栄子	私立草加みどり幼稚園長	
	わだたかし 和田卓	市立草加小学校教頭	副座長
事務局	草加市教育委員会子ども教育連携推進室		
オブザーバー	草加市健康福祉部		
	草加市子ども未来部		

※平成28年2月現在、50音順、敬称略

(3) 令和元年度委員名簿

委員	小 澤 理 加	私立谷塚おざわ幼稚園副園長	
	小 の 野 真 理	私立ルミ幼稚園長	
	き 木 村 治 生	ベネッセ教育総合研究所主席研究員	知識経験者
	くるま 車 ひろし 浩	草加市立川柳中学校長	副座長
	こし 興 みず 水 いさお 功	草加市立新田小学校長	座長
	しゅ 首 藤 とし 敏 もと 元	埼玉大学教育学部教授	学識経験者
	た 田 村 まなぶ 学	國學院大學人間開発学部教授	学識経験者
	てる 照 い 井 いく 幾 こ 子	草加市立あずま保育園長	
	なか 中 むら 村 とし 俊 おみ 臣	草加市立草加小学校長	
	は 羽 とり 鳥 けい 恵 すけ 輔	草加市立稲荷小学校教諭	
	ふく 福 だ 田 な 樹 な 々	元私立ひかり幼稚舎保育士	
	もと 元 き 木 れん 廉	草加市立高砂小学校主幹教諭	
	もり 森 た 太 ろう 郎	草加市立松原小学校主幹教諭	
	わた 渡 なべ 邊 まさ 雅 し 士	草加市立草加中学校教諭	
事務局	草加市教育委員会子ども教育連携推進室		
オブザーバー	草加市教育委員会指導課		

※令和2年2月現在、50音順、敬称略

(4) 審議経緯

回	開催日	議事等
1	令和元年 5月17日	○ 専門部会の年間開催予定等について ○ 令和元年度第1回草加市子ども教育連携推進委員会の報告について ○ 教育課程指導資料等の作成について
2	令和元年 6月18日	○ 教育課程指導資料～国語～（素案）について ○ にこにこわくわくプラン（素案）について ○ 学ぼう！ふるさと草加（素案）について
3	令和元年 9月17日	○ 教育課程指導資料～国語～（案）について ○ にこにこわくわくプラン（案）について ○ 学ぼう！ふるさと草加（案）について
4	令和元年 10月21日	○ 教育課程指導資料～国語～（最終案）について ○ にこにこわくわくプラン（最終案）について ○ 学ぼう！ふるさと草加（最終案）について

草加っ子 にこにこ わくわくプラン

草加市乳幼児期保育計画・指導計画

ご意見・ご要望をお寄せください

本資料をお使いになって、

- ① お気付きの点（ページも併せてご記入ください）
- ② 活用した実践例とその成果・課題
- ③ 活用方法のアイデア
- ④ その他のご意見・ご要望

等がございましたら、このページの様式でお寄せください。

園名 (団体名)		職名	
氏名		記入日	

※ ご記入いただいた様式は、FAX（登録番号・048-928-1178）等で送信してください。

※ ご不明な点は子ども教育連携推進室（922-3494）までお問い合わせください。

草加っ子 にこにこ わくわくプラン

草加市乳幼児期保育計画・指導計画

令和2年3月発行

草加市教育委員会 子ども教育連携推進室

〒340-8550 埼玉県草加市高砂1-1-1

電話：048-922-3494

